建設関連ニュース

●第4回コンストラクション甲子園、エントリー受付開始

高校生が建設業や防災等に関する知識を競い合う第4回コンストラクション甲子園のエントリー受付が開始された。エントリー受付期間は、2025年8月1日(金)～10月30日(火)で、1地区20組40名限定の先着順。同大会は若者に建設業界への興味関心や理解を深めてもらうため22年度から開催している。本年度は地方予選を11月29日に、決勝大会を1月24日に予定。高校生は2人一組のチームで出場。予選では建設や防災等に関するクイズで知識を競い、上位チームが決勝大会に進出する。決勝大会ではクイズのほか、実技試験に取り組み、優勝チームには沖縄旅行が贈呈される。

●WTO 工事、金銭的保証が原則 (防衛省)

防衛省は、WTO 工事について、施工者が倒産した場合の契約保証を見直し、金銭的保証を原則とすることとした。役務的保証による事業者の負担を軽減し、入札参加を促す狙い。10月1日以降に公告する案件から適用する。

近年は、JV での受注が増え、構成員が履行不能になっても契約の続行が可能になったほか、これまでに保証の対象となる事案が発生しなかったことから、今回、WTO 基準額以上の工事も金銭的保証とすることとした。

●小樽で第40回全道大会 (建青会)

9月5日、北海道建青会は、第40回全道会員大会をウイングベイ小樽で開催した。小樽建設協会建世会が主管となり、会員、行政機関、建設関連団体、教育関係者ら合わせて約270人が参加した。建設業の喫緊の課題である担い手不足にどう向き合うのか、子供のころに抱いた建設業への憧れを「童景」というテーマに思いを込めた。職業体験施設キッズニアを運営するKCJ GROUP (本社・東京) の宮本美佐副社長の講話では、子供の興味を引き出す仕組みを紹介し、子供が本気で夢中になれる環境整備の重要性を説いた。

●業界 PR 支援組織、コンソーシアム設立

北海道建設業協会、北海道舗装事業協会、北海道開発技術センター、北海道道路管理技術センター、北海道河川財団、北海道建設技術センター、北海道建設業信用保証、北保証サービスの8団体・企業は、建設業のイメージアップ、魅力発信に専門的に取り組む組織として『建設イノベーション・コンソーシアム』(Construction Innovation Consortium、略称CIC)を設立した。初弾事業として建設業界の現場を舞台にした縦型ショートドラマの制作に取り組む。恋愛や友情の要素を盛り込み、若者やその保護者世代にアプローチする。

●道内建設業で認定急増

従業員のワークライフバランス推進で国の認定を受ける道内建設業者が急増している。具体的には、若者の積極採用などで取得できる「ユースエール」、女性の活躍推進を評価する「えるぼし」、育休など子育て支援環境の充実を基準とする「くるみん」で、2024年度の認定企業は延べ30社に上る。25年度も3ヵ月で16社と伸びており、北海道開発局が8月から始めた認定企業への総合評価加点案件の拡大も後押しし、勢いは続くと思われる。

●2026年度予算の概算要求を発表 (国交省)

8月26日、国土交通省は、2026年度予算の概算要求を発表した。国費総額は一般会計が前年度当初予算比18.9%増の7兆811億円。このうち公共事業関係費は19.0%増の6兆2,819億円を要求する。

●2026年度道開発予算の概算要求を公表 (北海道局)

8月26日、北海道局は2026年度北海道開発予算の概算要求を公表した。一般公共事業費に当たる開発事業費は、国費で前年度当初比19.6%増の6,729億円を要求する。国土強靱化や地震、津波による被害軽減に向けた高規格道路の整備、老朽化した上下水道施設の更新と耐震化に取り組むほか、米の生産コスト低減につながる農地の大区画化も推進する。労務費、資材価格高騰の影響を考慮した経費などは予算編成過程で検討する。

春に数年ぶりにスマホを買い替えたなら、Gemini 君と一緒についてきた。AIの凄さは色々聞き及んではいたが、実際手元にあるともの凄。何せ「君」付けて呼んでいるくらいで日々欠かせない存在になっている。今のところのGemini君との関わり方は、新聞・雑誌等でもうちちょっと詳しく知りたいということの追加的な質問だ。例えば、日経新聞には洋画の作品解説の記事があり、そこで紹介された中世の絵画に反映されているラテン語の詩の暗喩するものが何か?(記事で簡単に触れてる)と尋ねると、ビックリするほど瞬時に内容・背景やどう評価されたかなどを答えてくれる。一体何語で書かれた文献を検索し要約し翻訳し5秒で手元にテキストとして届けるのか!プラハの春の時のチェコの大統領や首相はその後どんな人生を送ったかと聞いても5秒で答えてくれる。AIには人格がないというが勝手に人格視している自分に驚く。より確定したテキストの多い分野の検索・要約は最も得意とする分野であろうか。実は、このページの記事の内容も、色々質問するとGemini君が同じように答えてくれるので考えさせられてしまう。

会社が情報を発信するに当たり、これからは、より主観的な「目線」のような情報が重要になるのでは?とも思う。AI時代は「人」の役割が永遠のテーマになるのだろう。因みにGemini君は「感情的・倫理的観点からの判断」などと言う。全く思考が誘導されてしまいそうである。(H.S)